

今週（10月25日から10月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、無担保コールO/N物は邦銀勢を中心に、堅調な調達ニーズが続いた。加重平均レートは週を通して安定的に推移し、概ね▲0.02%台後半であった。週末29日は月末かつ3日積みとなるが、調達姿勢に特段の変化は見られなかった。日銀当座預金は概ね540兆円台前半で推移した。ターム物は、1M以内のショートターム物中心に▲0.015～▲0.001%の出合いが散見された。

10月27日～28日に開催された金融政策決定会合では、現状維持が決定された。

29日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、58,238億円の貸付が行われた（期落ちは47,193億円）。残高は28日時点で791,191億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.12～▲0.09%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2Y410～429、5Y140～149、10Y345～364、20Y170～178、30Y59～72、40Y10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、特段の材料もなく動意に乏しい中、散発的に出合いが見られる程度の閑散なマーケットとなった。

26日に実施された短国買入オペは、前回と同額(1,000億円)でオファーされ、弱めの結果となった。応札倍率が引き続き高く、売却需要の高まりが意識される結果となった。

29日に実施された3M物の入札は、次回11月5日入札の3M物の発行予定額が減額（50,000億円→43,000億円）となったことも意識され、やや強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は月末週にあたり、複数の業態で大型発行が見られた結果、発行超のマーケットとなった。市場発行残高は週を通して24兆円台前半から半ばでの推移となった。発行レートについては、新型コロナ金融支援オペの担保確保の買いニーズからか、大半がマイナス圏で推移しており、特に発行頻度の低い稀少銘柄や12月末を超える銘柄に関しては強いマイナスでの買いも見られた。一方で発行残高の多い銘柄や期間の短い銘柄に関しては、レートが上昇する場面も散見された。

26日にはCP等買入オペが事前予定通り5,000億円でオファーされた。新型コロナ金融支援オペの担保ニーズが強く、応札額が予想より膨らまなかった影響からか、結果は平均落札レート▲0.012%、按分レート▲0.015%と前回（平均▲0.010%・按分▲0.015%）比で平均は低下し、按分は横ばいとなった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/25 (月)	28,600.41	0.095	113.71	△ 0.027	△ 0.095	5,408,500
10/26 (火)	29,106.01	0.100	113.95	△ 0.026	△ 0.097	5,405,200
10/27 (水)	29,098.24	0.095	114.15	△ 0.027	△ 0.096	5,413,900
10/28 (木)	28,820.09	0.085	113.60	△ 0.027	△ 0.111	5,424,100
10/29 (金)	28,892.69	0.095	113.65	△ 0.027	△ 0.096	5,416,200

来週（11月1日から11月5日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/1 (月)		10Y 26,000億円 11/2発行			9月の米建設支出 10月のISM 製造業景況指数
11/2 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 金融政策決定会合議事要旨(9月21・22日分 8:50) 10月のマネタリーベース(日銀 8:50)	交付税借入 11,000億円 11/12借入			米FOMC(1日目)
11/3 (水)	文化の日				米FOMC(2日目) 9月の米製造業新規受注・出荷・在庫 10月のISM 非製造業景況指数
11/4 (木)	11月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	10Y 物価連動 2,000億円 11/5発行			英中銀MPC結果発表 9月の米貿易収支
11/5 (金)	10月の全世帯家計調査(総務省 8:30)	TB3M 43,000億円 11/8発行			10月の米雇用統計 9月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/1 (月)	100	▲ 18,400	▲ 18,300	CP買入 国債補完	▲ 900 300		▲ 600	▲ 18,900	TB3M発行▲50000償還51200 2Y発行▲30000償還15000
11/2 (火)	0	▲ 33,000	▲ 33,000				0	▲ 33,000	10Y発行▲26000
11/3 (水)	文化の日								
11/4 (木)	1,000	▲ 6,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	税・保険料揚げ 普通交付税 交付税借入▲11000償還11000
11/5 (金)	0	5,000	5,000				0	5,000	10Y物価連動発行▲2000
週間合計	1,100	▲ 52,400	▲ 51,300	—	▲ 600	0	▲ 600	▲ 51,900	

11/1は日銀予想、11/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、地合いに変化はなく、引き続き邦銀業態の調達を中心に▲0.06～▲0.01%中心の出合いが予想される。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、5日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、2日に実施が予想される短国買入オペのオファー額や、実施の有無にも注目したい。CP市場は、3日が祝日にあたるなか、月初の発行案件がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、海外では2～3日にFOMC、4日に英中銀MPC結果公表、5日に10月の米雇用統計が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入